

# 部分汚れ・シミの取り方

	汚れの種類	シミ・汚れの取り方
食品	紅茶・コーヒー類	水で固く絞ったタオルで拭く。生クリームやミルク入りときは、薄い洗剤液で拭く。古いシミは、レモン片か酢で拭くと効果的。
	コーラ(サイダー類)	オキシドールで拭くか、洗剤を入れたぬるま湯で拭く。
	ビール・洋酒・日本酒	水またはぬるま湯を、布か綿棒に含ませて、シミを吸い取らせるような感じでたたく。ぬるま湯でも落ちないときは、アンモニアか中性洗剤で。
	ジュース(果実汁)	汚れてすぐのとき、水またはぬるま湯を含ませた布で拭く。シミが残るときはアンモニアか中性洗剤液でおとす。
	スープ	洗剤をつけて絞ったタオルで拭く。
	茶	「紅茶」と同じだが、古くなった茶渋は酢をつけ、オキシドールで拭く。
	あめ(キャンディー類)	お湯に洗剤を溶かし、それで絞ったタオルで拭きとる。もし、跡が残っていたら、アルコールで軽く拭く。
	卵	白身は洗剤溶液でたたき出す。黄身はベンジンなどで脂肪分を取り、白身と同様にたたき出す。熱湯はタンパク質を取れにくくするので要注意。
	チューインガム	氷片でかためて取り、残ったものはベンジンでたたき出す。
	チョコレート	ティッシュなどで拭いてから、先にベンジンでたたいて脂肪分を取る。後、洗剤溶液でたたき出す。
	アイスクリーム・ジャム	粉末洗剤を山のように盛りあげ、べとべとしたものを吸い取らせる。乾いてからブラシではねのけるか、掃除機の隙間ノズルで吸引。
	カレー	水か湯で絞った布または綿棒でたたき出す。落ちなければ洗剤溶液(毛糸洗い用)と同様にたたき出す。
	ケチャップ	紙で拭き、酢で拭く。色が残ったらオキシドールで拭く。
	しょう油・ソース	ティッシュペーパーなどでできるだけ吸い取り、洗剤を入れたぬるま湯で拭く。古いシミはオキシドールで漂白。
	酢・歯みがき粉・みそ汁	「カレー」と同じ。
生クリーム・バター・マヨネーズ	お湯を含ませた布で拭く。後、洗剤液で拭く。まだ残るようならアルコールで、まだダメならドライクリーニング。	
化学製品化粧品	口紅	アルコールでこすり取り、洗剤を入れたぬるま湯で拭く。
	クリーム(化粧用)	紙で拭いてからアルコールで拭き、洗剤を入れたぬるま湯で拭く。
	香水・化粧水	石鹸水で拭く。
	マニキュア	マニキュアの除光液で注意深く取る。
	ファンデーション(お白粉を含む)	ティッシュペーパーで拭き、洗剤液で拭く。残る時は、アルコールで拭く。
化学製品(インク・塗料・その他)	インク(青・黒)	黒インクは洗剤で洗う。青インクはハイドロサルファイトの1%溶液を50~80°Cにあたためたものに布か綿棒を浸し、たたき出す。
	インク(赤)	吸取紙で吸い取り、洗剤を溶かしたぬるま湯で拭く。または10%のアルコールかオキシドールで拭く。
	印肉(朱肉)	食用油をつけて拭き、洗剤で油を拭き取る。拭き広げないように注意すること。
	クレヨン・靴墨	ひどい汚れはアルコールを歯ブラシにつけて、たたき出すようにして取る。後、ぬるま湯で拭く。
	ラッカー(塗料)	マニキュアの除光液かシンナーで拭く。
	墨	ごはん粒を練って糊状にし、シミの上のせて汚れを移し取るようにしてつまみ洗いを。毛羽立ちやすい繊維は板の上のせてヘラでしごく。墨は拡散しやすいので要注意。
	ペンキ	油性のペンキはなるべく早くベンジンでたたき出す。完全に落とすのは難しい。カーペットなどの汚れはテレピン油か市販のクリーナーで拭く。
灯油	粉末洗剤をかけて、吸収させる。ブラシではらい、自然に蒸発させて乾かす。窓をあけると乾きやすく臭いもとぶ。	
その他	乾電池から出た汚れ	汚れたらすぐに酢で拭く。
	ふん(犬、猫)・赤ちゃんのそそう	漂白剤入りのクレンザーを盛り上げ、べとべとしたものを吸い取らせる。乾いてから掃除機の隙間ノズルで吸引。漂白剤は殺菌作用があり臭気も消える。
	血液	オキシドールで拭くと簡単。または、水洗いしてから石鹸かアルコールで洗い、アンモニア液に浸す。古いシミもオキシドールで漂白。
	尿	お湯をかけながらタオルで何回か拭く。後、酢で拭く。カーペットなどのとき、それを少し浮かして、しばらく風通しをよくしておく。
	かび	ブラシではらう。ひどいときは掃除機の隙間用ノズルで取り去る。洗剤液で拭くか、アルコールで拭く。
	泥	よく乾かして指先で落としてからブラッシング。後、洗剤を入れたぬるま湯を含ませた布でたたき落としてから水で拭く。
	ロウソク	ティッシュペーパーをあてて、上からアイロンをかける。
	こげあと	スチールウールで表面を軽くこする。後、オキシドールを含ませたガーゼの上からアイロンをかけ漂白。
サビ(鉄)	3%しゅう酸溶液またはハイドロサルファイトの温液を布に含ませ下に敷いた布にたたき出す。取れるまで繰り返す。	

※漂白剤は塩素系漂白剤を使用しないこと。但しウールには、酸素系漂白剤でもアルカリ性のものは使用しないこと。 \*ここでいうアルコールは、市販の消毒用アルコール(エタノール)のこと

# クリーニング工法

	スチーム工法	ロータリーシャンプー法	エクストラクション法	ドライフォーム法	パウダー法	ボンネット法
概要						
	高温圧スチームと強力バキュームを特徴とし、スチームによりパイルに付着している汚れを分解させ、同時に汚れをバキュームします。高温による洗浄効果は想像以上に大きく、ロータリーシャンプー法と同等です。洗浄機を往復させるだけの単純作業で部屋の角や机の下などもきめ細かい洗浄ができます。機械は連続自動給排水方式です。	ポリッシャーの物理的な力と洗剤の作用によって汚れをパイルから遊離させるウェットタイプの方法です。現在最も多く利用されている技法です。通常のシャンプーの後、リンサーでエクストラクション作業を行います。	専用の機械を使って水や洗剤をポンプ圧力でジェットスプレーし、同時に汚れを回収する方法です。	機械の中で発泡させた洗剤をカーペット表面に送り出し、強力なパイルブラシでカーペットの汚れを包み込みながら除去する方法です。別名「ローラーブラシ法」とも呼ばれ、クリーニング後は粉末となった洗剤と汚れをバキュームするだけでOKです。	水分、洗剤、溶剤を含ませたパウダークリーナーをカーペットに散布し、専用の機械でブラッシングして、汚れをパウダーに吸着させる方法です。ブラッシング後はカーペット上に残ったパウダーをバキュームするだけでOKです。	カーペットの汚れを綿や合成樹脂のパッドに吸着させる方法です。あらかじめ洗剤をカーペットに散布してクリーニングする場合と、洗剤を直接パッドに湿らせてクリーニングする場合があります。
作業工程	1.バキューム作業。 2.前処理剤の散布。 3.ウオンドによる高温高圧スチーム噴射、即時バキューム同時作業。	1.バキューム作業。 2.前処理剤の散布。 3.ポリッシャーによるシャンプー。 4.エクストラクション。 5.乾燥。	1.バキューム作業。 2.前処理剤の散布。 3.エクストラクション。 4.乾燥。	1.バキューム作業。 2.前処理剤の散布。 3.ドライフォーム。 4.乾燥。 5.バキューム作業。	1.バキューム作業。 2.前処理剤の散布。 3.パウダー散布。 4.ブラッシング。 5.バキューム作業。	1.バキューム作業。 2.前処理剤の散布。 3.パフィンパッド。 4.乾燥。 5.バキューム作業。
効果	洗浄性 ————— 5 簡便性 ————— 4 乾燥性 ————— 4 再汚染防止効果 — 4 パイル損耗度 ——— 5 衛生効果 ————— 5 洗剤残留性 ————— 5	洗浄性 ————— 5 簡便性 ————— 1 乾燥性 ————— 1 再汚染防止効果 — 2 パイル損耗度 ——— 1 衛生効果 ————— 1 洗剤残留性 ————— 1	洗浄性 ————— 4 簡便性 ————— 3 乾燥性 ————— 2 再汚染防止効果 — 4 パイル損耗度 ——— 5 衛生効果 ————— 3 洗剤残留性 ————— 3	洗浄性 ————— 3 簡便性 ————— 5 乾燥性 ————— 4 再汚染防止効果 — 3 パイル損耗度 ——— 3 衛生効果 ————— 1 洗剤残留性 ————— 2	洗浄性 ————— 2 簡便性 ————— 5 乾燥性 ————— 5 再汚染防止効果 — 3 パイル損耗度 ——— 3 衛生効果 ————— 1 洗剤残留性 ————— 2	洗浄性 ————— 1 簡便性 ————— 4 乾燥性 ————— 5 再汚染防止効果 — 2 パイル損耗度 ——— 3 衛生効果 ————— 2 洗剤残留性 ————— 3
メリット	1.洗浄力に優れている。 2.予熱効果と強力バキュームで乾燥が早い。 3.連続給排水方式なので作業中断の必要がない。 4.作業工程が単純。	1.洗浄力に優れ、汚れの激しい場所が最も適している。	1.汚れも一瞬のうちに回収することが出来る。 2.カーペットのパイルを傷める危険性が少ない。 3.作業工程が単純。	1.作業が簡単で特別な技術が必要としない。 2.軽度な汚れに適している。	1.水を使わないので乾燥が早い。 2.作業中でも歩行ができる。	1.表面に付着した軽度な汚れに適している。 2.水を使わないので乾燥が早い。
デメリット	1.トラックマウント型は価格が高い。 2.作業時に駐車場が必要。	1.水を多く使用するため乾燥に時間がかかる。 2.労力と時間を要す。 3.ブラシの回転によってパイルを傷めやすい。	1.水を多量に使用するためカーペットを濡らしすぎる危険性がある。 2.乾燥に時間がかかる。	1.前進運動であるため作業箇所が限定。 2.強力な洗浄力はない。	1.洗浄力が劣る。 2.ブラッシング後のバキューム作業を怠ると、パウダーが拡散して反対に汚れやすくなる。	1.洗浄力が劣る。 2.パッドに汚れを吸着させるため、パッドの交換を頻繁に行わなければならない。

※効果の度合い1(低)→5(高)

## 洗浄技法と効果、問題点／オーバーウェットによる弊害

オーバーウェッティング(過剰に濡れた状態)のほとんどは作業を行うことでおこりやすく、洗浄方法の選択、カーペット素材・構造の確認、洗浄ミスの防止など事前の点検・確認が重要です。

縮み	波打ち・ふくれ	ブラウニング現象
ウィルトン等の織りじゅうたんを濡らしすぎると縮みが起こりやすくなります。事前の点検でグリッパーのゆるみ、固定状態を確認するなどが重要です。また、洗浄機の整備不良、故障及び操作ミスも濡らしすぎにつながりやすくなります。乾燥後、ニーキッカーでの修正も限界があり要注意です。	全面接着のカーペットでバックングに天然繊維(綿、麻)が使用されている場合は、オーバーウェッティングにより、接着剤の剥離が生じ、波打ち・ふくれが起きやすくなります。また、施工時のカーペットの引伸し状態によっても起こりやすくなります。	基布に植物性の天然繊維(綿、麻)が使用され、年月を経たカーペットに高温、アルカリ洗剤でのオーバーウェッティングにより、セルロース中のリグニン繊維素がブドウ糖になり、蒸発作用によってパイル先端が褐色状態になる現象です。修復が難しく、実施前の確認が重要です。

オーバーウェッティングはカーペットを洗浄する際に、常につきまとう問題です。縮みの問題もさることながら、一般的に施工されている全面接着によるタフテッドカーペットの波打ち、ふくれは部分的な修正方法はあるものの、面積によっては修復が不可能な場合もあります。調査あるいは事前の検査が必要です。